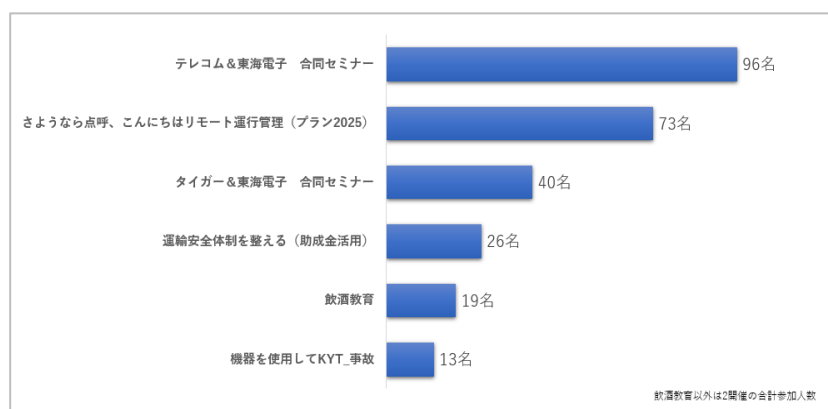


運輸事業者向け点呼セミナー2021 コロナ禍中の5月度ウェビナー開催結果
アンケート集計結果から浮かびあがる「運行管理高度化・効率化」の理想と現実

IT 点呼機器及び業務用アルコール検知器を開発・販売する東海電子株式会社(本社：静岡県富士市 代表取締役 杉本 哲也)は、この度、運輸事業者・運行管理者向けウェブセミナーの5月度開催結果をお知らせ致します。

1. コロナ禍におけるウェブセミナーの参加状況



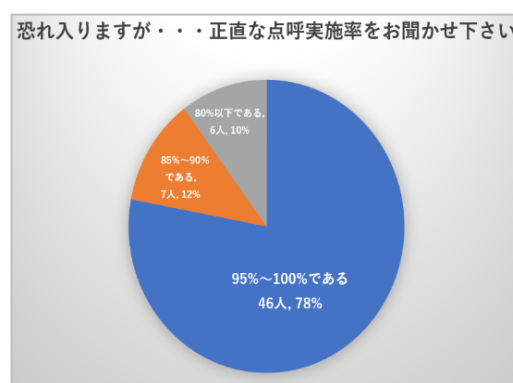
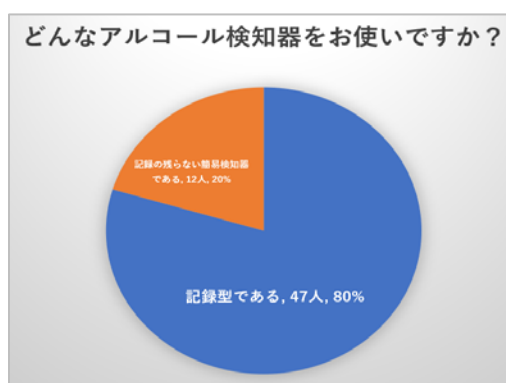
3 度目の緊急事態宣言の最中、お客様（運輸事業者の経営層、管理者層）の情報収集意欲は旺盛で、11 開催で合計 267 名が参加されました（全てウェブセミナー）。

今月は、事故防止対策のためのドライブレコーダーを市場展開している（株）タイガー様と、（株）テレコム様とのコラボレーション

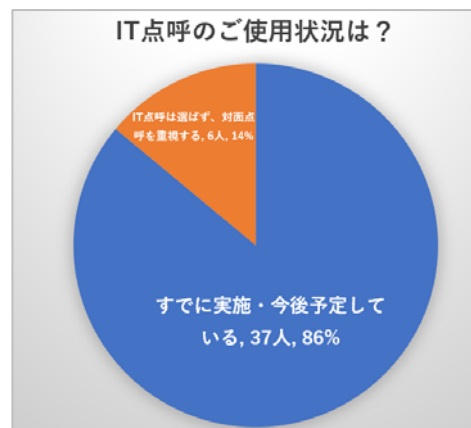
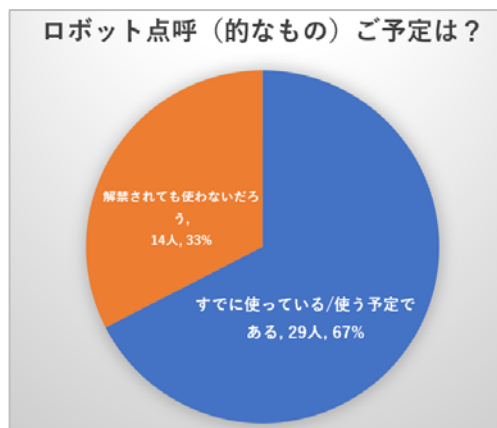
型セミナーのほか、国土交通省の事業用自動車総合安全プラン 2025 の解説セミナー、令和 3 年度のトラック協会の助成金の最新情報等をご紹介します。

2. 記録型アルコール検知器ユーザが 8 割（プラン 2025 解説セミナーでのアンケート結果）

プラン 2025 解説セミナーの参加者は、アンケート結果から、比較的、高度管理をされている企業群・トラック行政への感度が高い企業群と見受けられます。



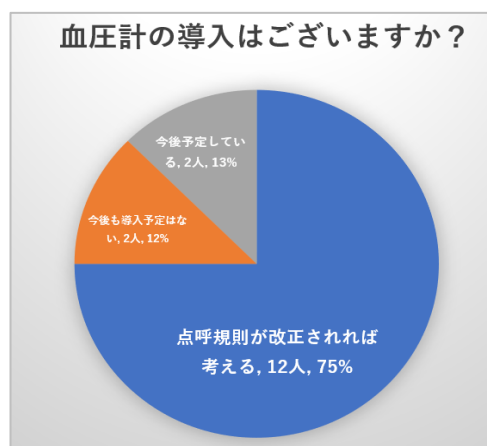
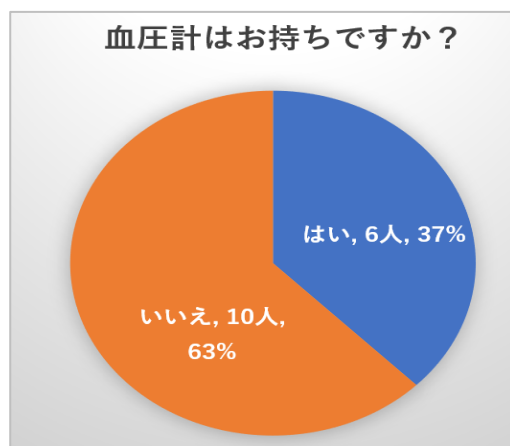
アンケートを見ると、点呼実施率や検知器体制と、IT 点呼やロボット点呼への意欲には、相関が見られるように思います。



「IT 点呼は当然視野にいれながら、あわよくば、ロボット点呼まで導入に持っていきたい」。とでも言いましょうか、点呼支援機器についてかなりの投資意欲が感じられる結果でした。

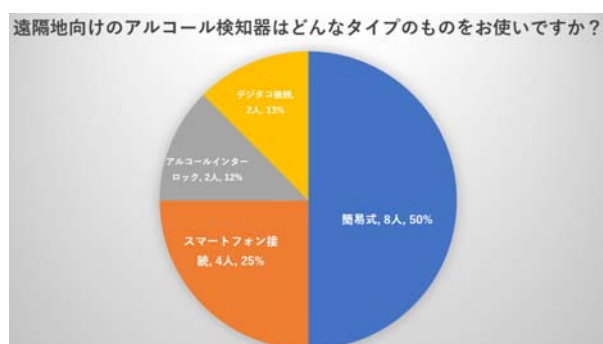
3. 事故防止・助成金関連セミナーでのアンケート結果

昨今、血圧計・IT 点呼・遠隔地向けのアルコール検知器に関して業界団体が助成制度を設けています。助成金情報を把握するため多数の事業者様が参加されました。



一方で、助成制度があるのを知りながらも、例えば血圧計については、「点呼規則が改正されれば考える」という回答が 75% もありました。お金の問題ではなく、「義務ではないから、後でも」との感覚が見受けられます。

4. 出発後のドライバー管理に関して

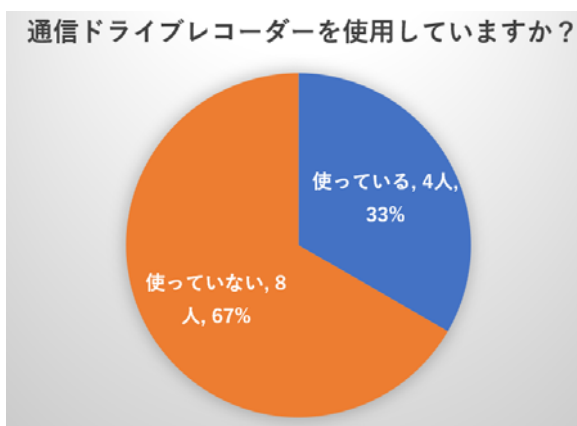
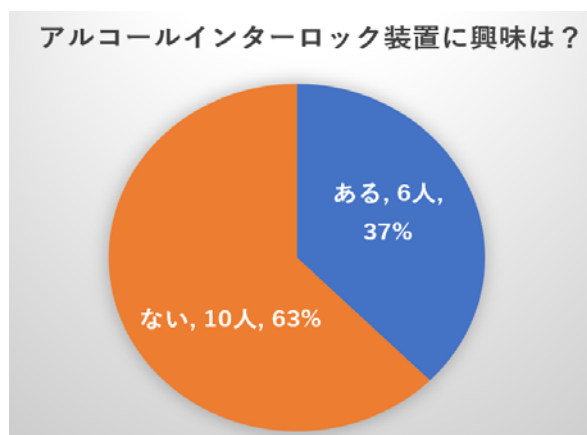


出発後の飲酒管理については、スマートフォン接続タイプが主流かと思いきや、まだ 5 割が、簡易式のアルコールチェッカーを利用しているようです。遠隔地にいるドライバーの飲酒チェックは、電話越し、ということでしょうか。

輸送安全規則上は何ら問題ありませんが、結果的に飲酒運転が大幅減にならない要因として、出発後の飲酒管理体制（仕組み）に問題があると国土交通

省は指摘しています。

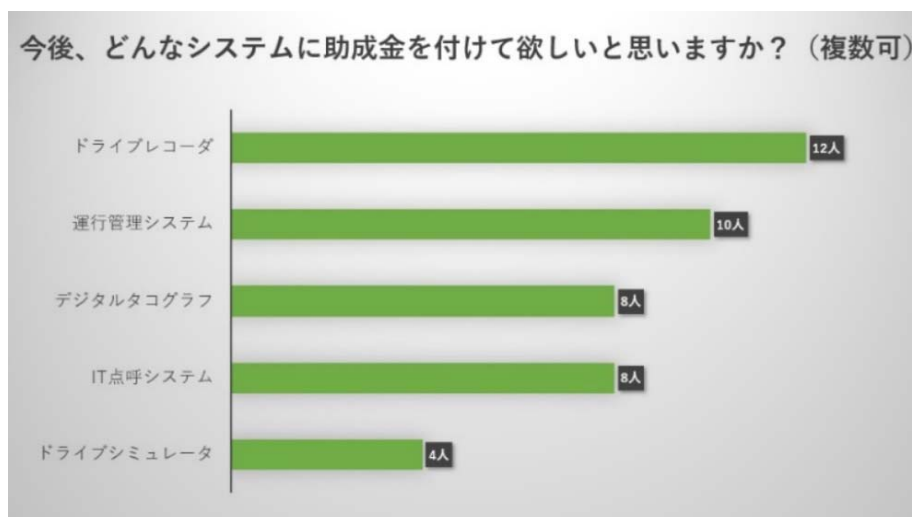
このような実態が、国土交通省のプラン 2025 で「アルコール検知器の要件追加」を後押ししたのかもしれませんが。



さて、アルコールインターロックも助成対象となっていますが、導入意欲、興味は低い結果となっています。

また、通信型のドライブレコーダーが市場に増えてきていますので、相当な装着率かと思いきや、アンケート結果からすると、実態はそうでもないのかもしれませんが。

そして、助成金対象としてほしいのはどんな機器か？ 聞いたところ、アンケート結果は以下となりました。



5. 総評・提言

<5 月度アンケートの総評>

アンケートの結果からは、高度・高感度な事業者は、より高度化を目指している様子が窺えます。一方で、「助成金次第で、購入を判断する」企業群は、助成金制度があったとしても、購入しない可能性もあります。得に、IT がからむ機器については。

なぜなら、デジタル化志向・デジタル化管理風土・デジタルに強い管理者やドライバーは一朝一夕では得られないから。

IT 点呼、ロボット点呼、運行管理 DX、高度化、効率化の流れはもはや止めようがないと思います。しかしながら、今回のアンケートで、一部リアルな実態が垣間見えました。

- アルコール検知器は、非通信型、非記録型がまだ一定数ある（一定のアナログ管理率）
- ドラレコ未導入企業が、一定数存在する（一定のアナログ管理率）
- ドラレコを導入していても非通信型である可能性が高い（一定のアナログ管理率）
- いまだデジタコが義務化されていないが故アナタコ・デジタコ混在管理率が高い
- IT 点呼、ロボット点呼に期待をしているが、自社の管理実態を踏まえているとは限らない

<提言>

「運行管理の高度化」「運行管理の効率化」をデジタル化・IT 化をもってなすには、国土交通省に以下を提言申し上げたい。

1. デジタルタコグラフと、デジタル点呼（IT・対面）を、同時に義務化する。
2. 健康状態のメジャーなバロメータである血圧測定デジタルデータ保存を義務化する
3. 指導監督用ドライブレコーダー装着を義務化する（貸切バスだけではなく事業用自動車すべて）

理由：

1. 部分的なデジタル化、段階的なデジタル化は、事業者にも二重管理、二重作業を強いる可能性がある。検知器、点呼、乗務日報、指導監督等、すべてデジタル化されるというロードマップを指し示すことで、メーカーや事業者にも、二重投資、三重投資を強いない施策を期待したい。
2. また、今後、官民が一体となり、運行管理の高度化のレギュレーションモデルを世界へ「安全インフラ輸出」できるレベルにすることで、日本の運輸行政が世界の安全リーダーシップモデルにもなれる

<点呼 세미나 2021 5 月度開催 アンケート グラフ集>

アンケートの回答の拡大版はこちらで詳細をご確認ください。

https://www.tokai-denshi.co.jp/app/usr/downloads/file/1148_20210613202154_download_file.pdf

本件に関する問い合わせ先：東海電子株式会社 営業企画部

東京都立川市曙町 2-34-13 オリニピック第 3 ビル 203

E-mail: info@tokai-denshi.co.jp

<http://www.tokai-denshi.co.jp>